

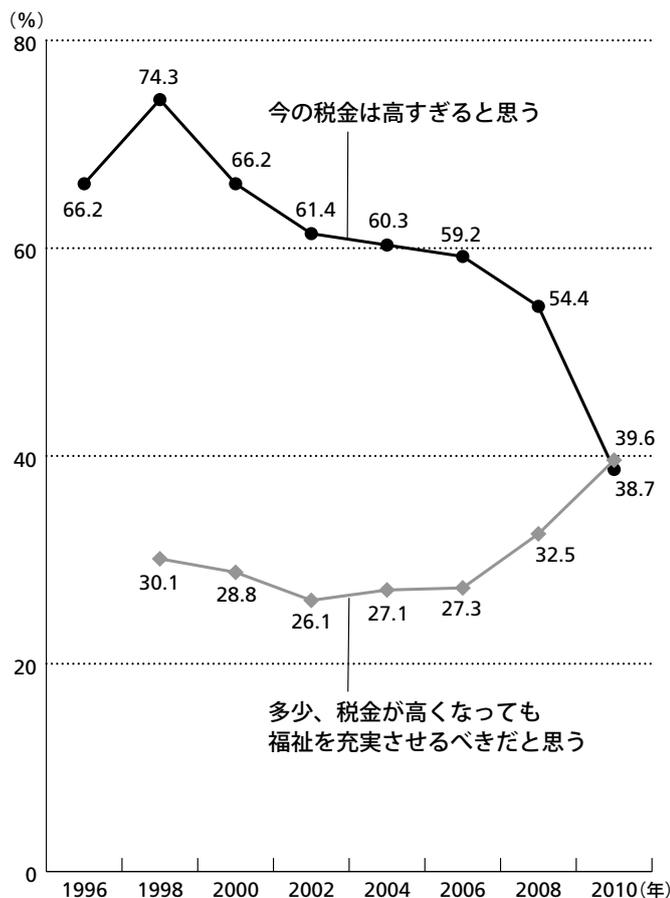
生活定点データトピックス [Vol.1]

～博報堂生活総合研究所調査より～

**「今の税金は高すぎる」と思う人が初の過半数割れ(38.7%)。
「税金は高くても福祉の充実」を求める生活者。**

- ・「今の税金は高すぎると思う」が過去“最低”(1998年74.3% → 2010年38.7%)。
- ・逆に、「多少、税金が高くなっても福祉を充実させるべきだと思う」は過去“最高”(1998年30.1% → 2010年39.6%)。

博報堂生活総合研究所では、生活者の意識や行動の変化から将来の価値観や欲求の行方を予測するため、同じ条件の調査地域・調査対象者に対し、同じ質問を繰り返し投げかける定点観測型のアンケート調査「生活定点」を2年に1度、実施しています。この度、「生活定点」調査の時系列分析から、生活者の意識・価値観の大きな変化を発見しましたので、ご紹介いたします。



「税金は高すぎる」が初の過半数割れ、4割以下へ。

「今の税金は高すぎると思う」は、消費税が3%から5%に増税された翌年、1998年の74.3%をピークに続落。2008年(54.4%)から15.7ポイント激減して、今年(38.7%)を記録しました。

「税金が高くても福祉充実」へと価値観は大きく変化。

一方、「多少、税金が高くなっても福祉を充実させるべきだと思う」は、2004年から上昇に転じ、今年(39.6%)を更新しました。その結果、「今の税金は高すぎると思う」のスコアを初めて逆転することとなりました。最新データの調査時期は2010年5月。消費税はまだ世論の大きなテーマにはなっていませんでしたが、生活者の税金に対する考え方は既に大きく変化していたといえるでしょう。

生活者の意識は「利己から利他へ」。

他のデータに目を向けても、「個人の利益を犠牲にしても国民全体の利益を大切にすべき」という意識が7割弱(2010年67.1%)で過去最高を記録するなど、生活者の意識は「利己から利他へ」と転換しているようです。

長期化する日本の閉塞状況を生きるうちに、多少の個人の痛みはあろうとも、公共の幸せを目指していかなくては、個人の幸せを手に入れられないと、生活者は考え始めているのかもしれません。

※ 生活者の意識・価値観の大きな変化は、今後も「生活定点データトピックス」シリーズとして、毎月発表する予定です。

本件に関する
お問合せ先

株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所
株式会社博報堂 広報室

夏山・吉川 TEL: 03-6441-6450
西尾・山野 TEL: 03-6441-6161

博報堂生活総合研究所「生活定点」調査について

- **調査概要** 1992年の調査開始から2年に1度、同じ条件の調査地域・調査対象者に対し、同じ質問を繰り返し投げかける定点観測型アンケート調査として実施。その結果から、生活者の意識や行動の変化を時系列で捉え、将来の価値観や欲求の行方を予測することを目的としている。
- **調査地域** 首都 40 km圏
(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・茨城県)
阪神 30 km圏
(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県)
- **調査対象者** 20歳～69歳の男女
- **サンプル数**
(有効回収)
- | | |
|-------------|--------|
| 1992年 | 1,976名 |
| 1994年～2002年 | 2,000名 |
| 2004年 | 3,105名 |
| 2006年 | 3,293名 |
| 2008年 | 3,371名 |
| 2010年 | 3,389名 |
- 男女それぞれ5歳刻みを1グループとし、最も少ないグループでも有効回収数が125人となるように、最新の国勢調査に基づきサンプルの割付を行った。
- **サンプリング** 該当エリアの町丁目別世帯累積表より、1地点10人前後としたときの地点を等間隔で抽出し、該当地点で対象者を設定した。
- **調査方法** 訪問留置法
- **調査時期** 偶数年5月
(最新データは2010年5月11日～2010年5月31日)
- **調査項目** 衣、食、住、健康、学び、働き、家族、恋愛・結婚、交際、贈答、消費・お金、情報、メディア、社会意識、日本の行方、国際化と日本、地球環境など
1,492項目。(2010年時点)
- **設計・分析** 博報堂生活総合研究所
- **実施・集計** 株式会社 東京サーベイ・リサーチ

生活定点URL

<http://seikatsusoken.jp/teiten/>

※「生活定点」の時系列分析から発見した生活者の意識・価値観の大きな変化は、「生活定点データトピックス」シリーズとして毎月発表する予定です。

※ 博報堂生活総合研究所のWEBサイト「生活総研 ONLINE」(<http://seikatsusoken.jp/>)では、すでに公表した「生活定点」の分析結果も含め、生活者に関する調査・研究データにご自由にアクセスしていただくことが可能です。ぜひ一度ご覧ください。